

●冒険遊び場推進計画を

「子どもが外で自由に群れ遊ぶ経験の欠如が子どもの危機をもたらしている」とする日本学術会議が真っ先に提案しているのが、冒険遊び場づくりである。「自分の責任で自由に遊ぶ」冒険遊び場が、西日暮里公園で毎月第二日曜日、住民の取り組みで開催され、多世代交流の場になっている。区の子育て支援の中に冒険遊び場を位置づけ、常設型あるいは巡回型の冒険遊び場を区内各所に展開することが必要ではないか。



区：子どもの外遊びの場として公園を重点的に位置付けている。支援していきたい。

●荒川区でも生物多様性を広めよう

・今年10月、名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催される。自然が少ない大都会の荒川区だからこそ、少しでも、自然に関心を持ち、環境保全を考える機会として生物多様性と名古屋会議を広報する意義は大きい。住民参加の生きもの調査など実施したらどうか。



区：鋭意検討して実施したい。

・学校・幼稚園・保育園でも、NPOや地域の人材と連携して、「生き物大好き」教員・保育士の養成を行い、子どもたちに生き物大好き感性を育てる取り組みが必要ではないか。



区：NPOや地域の協力で自然環境を充実させ、教員研修や体験学習を通じ生物多様性への理解を深めたい。



育児休業を取りやすくするための
区条例改正にあたっての本会議討論から

男性も家事育児を

今回の条例改正は、なによりも、男性が積極的に家事育児にかかわるようにすることを目的としている。少子化の原因の一つに、家事育児についての負担が大きく女性に偏っている現実がある。

今後の地方自治体運営のなかでは、子どもと向き合う経験はその後の職務遂行に大きく活かされる。幸福実感都市を掲げる荒川区なら、なおさらである。

荒川区役所では、年間50人ほどの出産があるにも関わらず、男性の育児休暇の取得はあってもたった一人。

今回の条例改正を機に、育児休暇の取りやすい職場風土をつくってほしい。

広島県三次(みよし)市は子育て特別休暇「お父さんお母さん休暇」(有給)を1カ月間あるいは2カ月間義務付けている。



拠点開発調査特別委員会から

●旭電化跡地

区の文化施設用地として都から移管された2haの土地は、運動場として活用されている。今後どうしていくかの議論が続いている。

建物というより、空間を大切にしたい活用法を探りたいものだ。

●三河島駅前地区再開発

南側の再開発組合の業者が決まり、1・2階を商業地、3階以上は住宅の34階建ビルとなる。

北側は、いままで再開発準備組合(1.5ヘクタール)がつくった、37階と7階の再開発案に加え、別の団体が、2.5ヘクタールの再開発を目指している。統合できなければ再開発は進まないことになる。

う~む、旧真土小学校は耐震補強もしていない。

●旧道灌山中学校跡地(西日暮里駅前)

3つの案をもとに地元で勉強会が行われている。
A案：権利者154人、駅前広場と43階ビル2棟
B案：権利者44人、駅前広場と35階ビル1棟
C案：中学跡地のみ、道路・4階建物・空地整備
今年度内に方向性が出る見込み。